

## 異文化と心通わせ

つくば通信

33



東京に住む伯父は私がよくしゃべる子供だった。それで、ペチャコと呼ぶものでした。今でもよくかられます。その日の出来事から思いついたことまで、なんでもよくしゃべっていました。ところが、この私など比ではないペチャコのブラジル人女性2人に出会いました。「いつ、呼吸しているのだろう」と思っていたのですが、乗り換えるも入れると4時間も変わらないはずなのに、かかるこという家路に就くのかの具合が心配と相談を受けたので、近くの医院に行きました。患者であるブラジル人の女性の一人は十分な英語を話すのですが、ちょっと言葉が不安だからと英語の堪能な同郷の友人も同行しました。ドクターとの会話はひとひらきろ日本語→英語→ポルトガル語。診察室はにぎやかになりました。その月の滞在を終え帰国を控えていたのですが、乗り換えたのに、帰り道。痛みは診察前と変わらないはずなのに、

# おしゃべりの文化

おしゃべる研修生を見ると、私は大きな安心感に包まれるので。会話が娛樂であることをあらためて思いました。  
おしゃべりせいかくの機会なので、この明るくしゃべる女性たちに薬局で薬を待つ間、日本の印象を聞いてみました。するといふことこの時期の日本に関する「不思議」を話してくれました。

ます。そして石粉並を務め  
かに植物や何かのアレル  
ギーを持っている人はい  
るけれど、天氣予報に花  
粉情報が出てくるほど、全  
国的に大変な日本の状況  
には少々驚いたようでし  
た。そして日本人がマス  
クをするもうひとつのは理  
由。風邪の予防は分かる  
にしても、「人とうつすと  
いけないから」というエ  
チケット、その発想には  
感激したと話してくれま

言いました。二十一年ぶり  
のやうな都会は分から  
ないけれどほかの街だ  
と駅でも電車でも天気の  
話から最近のニュースま  
で知らない人ともよくし  
やべるんです。私の母な  
どお店や郵便局など行列  
が大好きで朝からわざわ  
ざ並びに行くよ。知ら  
ない人とのおしゃべりが  
できるから」これには参  
りました。このおしゃべ  
り、筋金入りでした。  
**（音）**

授業の合間に外に出て歓談する研修生たち

なかなか薬の順番が回つてこないついでに、他

国際センター・クリニツ  
ク「一デイネーター」